

魅力あふれる

但馬



北近畿豊岡自動車道



公立豊岡病院 組合立豊岡病院

救急集中治療科
(但馬救命救急センター)
センター長
永嶋 太 氏



非常に広い地域を対象としているために生じてしまうのが、搬送時間の長さの問題です。救急車が当センターに着くまでに、1時間以上かかることもあり、その解決策として、2010年からドクターヘリとドクターカーが医師や看護師を乗せて出勤する基地病院ともなっています。いずれも消防機関からの要請を受けて現場へと向かいますが、ドクターヘリの場合は、医療器材を搭載した機内で救急救命処置にあたりながら搬送します。ドクターカーの場合は、ひと足早く到着している救急車に現場で同乗、あるいは途中で合流し、医師の介入を早めます。このように「現場から治療を開始できる体制」を構築していることは、



出動回数全国1位のドクターヘリと24時間365日運航しているドクターカー

救急医療では搬送時間の短縮が救命率にダイレクトに影響します。例えば、心肺停止状態の患者さんでAED（エーイーディ）を使用しても心臓の機能が正常に戻らない場合、病院に搬入後ECMO（エクモ）による蘇生手段が必要となりますが、その際1分遅れることに8〜10%死亡率が上がるといわれています。

豊岡道路2.0kmの開通により、当センターから1、2分の距離にある豊岡出石ICが利用できるようになると、これまでは但馬空港ICで高速道路を下りて病院まで5、6分かかっていた時間が、約8〜10分は短縮できることになります。心肺停止の患者さんの搬送は年間180〜200件はあり、その約20%程度はECMOを必要とするため、豊岡道路は但馬地域の救急医療に大きく貢献するに違いありません。

現在、当センターでは救急科専門医20名の体制で、ドクターヘリの出動件数は年間2000件、ドクターカーは2500件に及びます。症例も豊富なため、全国から救急救命の研修に訪れる若手の医師も多く、高いモチベーションを維持した環境で、救急医療の質の向上に挑んでいます。

北近畿豊岡自動車道の整備では、これまで2020年の日高豊岡南道路の開通により、養父市や朝来市との間で当センターまでの30分圏域が格段に広がりました。今後、豊岡道路II期の整備が進み、山陰近畿自動車道と結ばれると、香美町、新温泉町にもさらに30分圏域が広がり、より安心な救急医療体制が提供できると大変期待しています。



豊岡市長
関貫 久仁郎 氏

「小さな世界都市」の実現へ 弾みをつける交通基盤

北近畿豊岡自動車道の
早期全線開通に大きな期待

住み続けたいくなる安心感と
地元で働く環境を創出

豊岡市は県下の市町で最も面積が広く、その約80%を山林が占めるという自然環境に恵まれた人口約7・7万人の地方都市です。

全国的に人口減少が進む中、豊岡市としてはコウノトリに関する施策を代表に、この地にしかない価値を高め、世界中の人々から尊敬される「小さな世界都市」の実現を目指しています。これに加えて、DX推進による行政の効率化により、市民が「豊岡に暮らして良かった」と実感できるまちづくりを進めていきたいと考えています。

このまちづくりにおいて、最も重要なのは、市民が安心・安全に暮らせる環境をつくることです。北近畿豊岡自動車道の延伸はそうしたまちづくりを促進し、未来の豊岡市の基盤となるものです。

まず、市民の安心を支える機能として、浸水などの災害時に代替道路となり、地域間の移動や物資輸送を可能にする危機管理体制が強化されます。

また、三次緊急医療機関である公立豊岡病院但馬救命救急センターへの緊急搬送やドクターカーの運用による医療介入時間の短縮も実現し、「いのちの道」も拡大されます。

さらに、豊岡道路と連携して整備された県道但馬空港線沿線の土地を「コウノトリ豊岡産業用地」として整備し、豊岡出石

ICの供用開始に合わせた、用地分譲を進めています。産業振興や雇用創出を通じ、地域の活力を二層向上させていきます。

道がつながり交流が広がる
もっと輝く豊岡市へ

市全域が「山陰海岸ジオパーク」に含まれる豊岡市は、特徴的な地質や地形を背景に、特色ある歴史と文化が育まれてきました。コウノトリの生息地、水質も透明度も関西屈指の竹野浜海水浴場、外湯めぐりで知られる城崎温泉、スキー場がある神鍋高原、但馬の小京都と称される出石地域、チューリップまつりの但東地域など、観光資源が豊富です。

観光来訪者は、その80%が関西圏のお客様です。豊岡道路の開通は、京阪神地域から市内観光地までの所要時間の短縮や、近隣の観光地との周遊を促します。それにより観光の利便性が高まるだけでなく、多様化する旅行形態へ対応し、観光地としての質がますます高くなると考えています。

また、物流時間の短縮で、地域でとれた海産物や農産物の速やかな流通、販路拡大や地域のPRにもつながり、地場産業の成長や新たな雇用創出も見込まれます。

近年、まちづくりにおける新たな担い手として民間主体の役割が拡大しつつある中で、市としても、道路ネットワークを活用し、今後様々な民間事業者と連携して魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。



全但バス 株式会社
社長
村上 宣人 氏

一般路線バスやコミュニティバスは、特に朝夕の通学や通院などに欠かせない交通機関です。また、大阪・神戸と結ぶ高速バスは観光のお客様も多くご乗車されています。始発は城崎温泉と湯村温泉ですが、但馬地域のバス停をきめ細かく走るルートも設け、地元の皆様が大阪・神戸にお出掛けになる際にも、行きに帰りに便利にご利用いただいています。

このように但馬の皆様の生活に密着して事業をさせていただく中で、企業理念にも

「一般路線バスやコミュニティバスは、特に朝夕の通学や通院などに欠かせない交通機関です。また、大阪・神戸と結ぶ高速バスは観光のお客様も多くご乗車されています。始発は城崎温泉と湯村温泉ですが、但馬地域のバス停をきめ細かく走るルートも設け、地元の皆様が大阪・神戸にお出掛けになる際にも、行きに帰りに便利にご利用いただいています。」

大阪・神戸を結ぶ高速バスや バスツアーがもつと快適に 高規格道路の延伸と連結を バス事業の拡大につなげる

人々の移動を支え、
地域と共に一世紀

全但バスは、1917年（大正6年）に創業し、バス事業を基幹とする交通事業を一世紀にわたり営んでいます。現在、但馬全域を走る一般路線バスが34路線150系統、但馬地域と大阪間を往復する高速バスを1日8往復、神戸間を5往復、加えて5市町内を運行するコミュニティバスを8路線99系統運行し、主要な営業所として、八鹿、豊岡、湯村温泉の3拠点を置いています。



全但特急バス

掲げる「地域貢献・未来創造」に役立つ事業拡大を図つてまいりました。

2024年に開港30周年を迎えた但馬空港では、開港当初からターミナルビル内のカウンター業務や保安管理、滑走路内での誘導や燃料補給などの作業に携わっています。近年では竹田城の休憩処「山城の郷」をはじめ地域の運動公園やスポーツ施設などの指定管理業務も受託しています。

速く快適に走行できる
高規格道路の効果は大きい

北近畿豊岡自動車道の整備が進むにつれ、高速バスの運行所要時間は短縮されました。2006年の和田山IC供用

の際には約35分、その後も八鹿米ノ山IC、日高神鍋高原IC、但馬空港ICの供用で10分ほど縮まり、今回の豊岡道路開通によってまた4、5分ほど縮まると、従来と比べて50分程度の時間短縮が実現します。

全但バスでは、降雪などの影響による鉄道の運休や但馬空港から伊丹空港への便が欠航するような場合に、バスによる代替輸送を担っています。その際にも、但馬空港とは但馬空港ICを利用して大変便利にアクセスできますし、北近畿豊岡自動車道は、除雪体制も効率化されていて、高規格道路の頼もしさを感じています。

速く快適に走行できることは、お客様の利便性の向上とあわせて、ドライバーの勤務時間や運行ストレス軽減にもつながります。また、道路が延びればドライバーの通勤圏も広がり、近年の課題である労働問題にも効果があることを期待しています。

今後は、北近畿豊岡自動車道がさらに延び、山陰近畿自動車道に連結することになります。全但バスでは「らく旅」という但馬地域から全国各地の観光地へご案内するバスツアーを提供していますが、そのルート・目的地にも新たな企画の可能性が生まれることと思います。但馬地域を東西南北に結ぶ高速道路ネットワークが完成すれば、大阪・神戸のみならず、鳥取方面や京都方面からのお客様も増加します。それに合わせて将来的には、高速道路ネットワークを活用した但馬内を運行する急行バスも検討し、地域発展に貢献したいと考えています。



養父市長
広瀬 栄 氏

「つながり人口」を拡大し “活発な田舎”であり続ける

高規格道路が広げる
都市との多様なつながり

伝統を大切にしながら
次の時代を見据える

養父市は、10年後の未来像に「豊かで持続可能なスマートヴィレッジの共創」を掲げ、人の温かみを大切にしながら、先端的なデジタル技術も大いに活用したまちづくりを進めています。全国初の「中山間地域の農業改革をめざす国家戦略特区」でもあり、農業生産法人の誘致や若い世代の農業の担い手を積極的に迎え入れ、有機農業を中心として環境に配慮した農業に取り組んでいます。

また、日本の黒毛和牛の原点である但馬牛の競りが行われる、但馬家畜市場や、先駆的な養蚕家であった上垣守国の功績によつて江戸時代に始まった養蚕文化など、但馬の風土に育まれた伝統を大切にしながら、次の時代を見据えています。

その施策のつが、3次元仮想空間（メタバース）に、仮想の養父市を設置した「バーチャルやぶ」事業です。吉本興業との連携で2022年6月に開設、養父市の魅力を楽しんでいただき、世界中どこからでも「やぶ市民」になります。現在、養父市の人口は約2万2000人ですが、「バーチャルやぶ」では、人口100万人をめざしてコンテンツを充実させています。

ほかにも、養父市に伝わる名医伝説にちなみ、過疎地域の医療に貢献する全国の若手医師を顕彰する「やぶ医者大賞」も2023年で第10回を数え、地方で活躍

する医師の方々とのネットワークが広がっています。

こうした取り組みは、様々な方々に養父市に関心を持っていただき、多様な形で関わりを持つ「つながり人口」を増やしていく目的があります。

北近畿自動車道を大動脈に
地域を健康に保つ交通網を

「つながり人口」に象徴されるように、デジタルの活用によつて、遠く離れていても心理的距離を縮めることが可能な時代になりました。そして物理的距離を縮めるのが、道路だと考えています。そのためには快適で安全な走行ができ、しかも長距離移動を可能にする高規格道路が必要です。

現在、養父市では持続可能な但馬地域の公共交通のあり方を検討中です。JRローカル線沿線の自治体と協議会を設け、鉄道・バス・タクシーなどの事業者が連携する「交通連合」により、利用者の利便性を最優先に時間・料金・管理の壁を取り払い、地域にあう交通のしくみを構想しています。

将来、北近畿豊岡自動車道が全線開通し山陰近畿自動車道と連結すると、いわば但馬地域の動脈が広がります。但馬地域内を細かく走る一般道やローカル線という毛細血管と、都市と結ばれる大動脈があつてこそ、ひと、ものの流れが活発になり、多様なつながりを持つ但馬地域になります。今後、も様々な挑戦ができる「活発な田舎」であり続けることをめざし取り組んでいきます。



朝来市長
藤岡 勇氏

人と人が交流し、幸せが循環するまちをめざして

京阪神の大都市圏を結ぶ
交通の要所が果たす役割

「暮らすような旅」を
楽しめるまち、朝来市

旧朝来郡の4町が合併し、朝来市が誕生して、2025年で20周年を迎えます。ここは兵庫県のほぼ中央に位置し、京阪神の大都市圏を結ぶ交通の要所にあたります。雲海のパノラマから、日本のマチュピチュ、天空の城と呼ばれる竹田城跡をはじめ、生野銀山などの史跡、四季折々の豊かな自然に恵まれた美しいところです。

2022年からの8年間、第三次朝来市総合計画を策定。「人と人がつながり幸せが循環するまち」対話で拓く朝来市の未来」をスローガンに、まちづくりを進めています。人口減少の解決に向けて、特に女性が活躍できる住みよいまちを目指して、子育てのサポートに力を入れています。

現在は山東ICと和田山ICの間に新たな産業団地を作る計画を進め、既に測量に入っています。ここにITやAI関係などの企業を誘致できれば、若者の雇用の場も増えて、市内の経済を支えてくれるでしょう。

また、第三次朝来市観光基本計画も立て、「暮らすような旅」を楽しめる、ここにはない物語を紡ぐまち」をコンセプトに、観光業の発展にも取り組んでいます。

2025年には大阪・関西万博が開催されるので、京阪神から北の方へ足を延ばして朝来市にも立ち寄ってもらえるよう、また竹田城跡が閉山している冬期や早朝にドローンを飛ばすプログラムや、新酒が出る春

の酒蔵巡りなど、魅力的な観光コンテンツを開発中です。

「大交流」を実現した

北近畿豊岡自動車道の開通

観光業を盛り上げ交流人口、そして定住人口を増やすためにも、道路整備は非常に重要です。2022年に朝来市を訪れた観光客は年間約188万人。車で中国自動車道から吉川ジャンクションで舞鶴若狭自動車道に入り、春日ICから北近畿豊岡自動車道へ通つてこられる方が多いです。今回の北近畿豊岡自動車道開通により、京阪神だけでなく、山陰地方とのアクセス向上にもなり観光にもいい影響を期待します。豊岡出石ICができたことで、豊岡病院への「命の道」もつながりました。開通を見すえて、道の駅但馬のまほろばのEV車用急速充電器を増設し、上下線で活用できる計画も進めています。

従来の北近畿豊岡自動車道の整備の結果、「大交流」が実現し、道の駅但馬のまほろばの収益のアップ、「播但貫く、銀の馬車道 鉾石の道」の日本遺産認定に伴う観光客の増加など、さまざまなストック効果がありました。今後、豊岡道路Ⅱ期が山陰近畿自動車道へと延伸し、広域道路ネットワークとしてつながる予定です。朝来市は交通の要所として、この好機を活かしてさらに魅力を高め、より多くの皆様に来訪していただける取り組みを進めていきたいと考えています。

但馬全域の魅力を結集し “目的地”となる道の駅をめざす

5市町の距離感が近づくことで
新たな連携が可能になる

行きに帰りに寄りやすい

「但馬の玄関口」の道の駅

朝来市にある道の駅「但馬のまほろば」は、水上ICと和田山IC間の供用開始と同時に、2006年7月に開業しました。北近畿豊岡自動車道の上下線どちらにも直結し、一般道路からでも利用いただけます。敷地内には、史跡のまち朝来市の出土品を管理・展示する埋蔵文化財センター「古代あさこ館」を併設していることも特徴です。

国から地域活性化の取り組みが評価された重点「道の駅」であり、兵庫県で初めての「防災道の駅」にも選定されており、公共的な機能の向上にも取り組んでいます。

立地的に京阪神方面から北近畿豊岡自動車道を通じて但馬地域に入る玄関口にあたるため、朝来市だけでなく但馬全域の観光の行き帰りに立ち寄られるお客様が多いです。春夏秋冬各々の観光のほか、城崎温泉や湯村温泉などは年間を通して人気があります。

道の駅 但馬のまほろば

駅長
田中 孝佳氏

行きは休憩スポットとしてお食事やトイ

レを利用され、帰りにお土産を購入されるお客様が多く、レジのカウントだけでも来訪者は年間で60万人を超えます。

「但馬のまほろば」は、ここだけの店舗であり、ここにしかない魅力づくりを目指し、但馬地域の5つの市町を訪れるお客様をお迎えしています。

地域の生産者・事業者の
皆様と連携を強めたい

ここ数年で、日高豊岡南道路そして豊岡道路と順調に道路が延伸、観光の目的地までの所要時間が大きく縮まっています。レジャーの楽しみ方の一つとして、休憩をゆとりとついでいただくこともできるようになりしました。当駅では直営の但馬牛精肉店を持つメリットを生かし、ブランド牛の但馬牛を堪能できるレストランがあります。ぜひ本場の味を存分に味わっていただければと思います。

お土産コーナーでは、朝来特産の岩津ねぎを使用したラー油やソーセイジなど、オリジナル商品も扱っています。ここでしか手に入らないオンリーワンを、地元の生産者・事業者の皆様と力を合わせ、今後ますます増やしていきたいと考えています。

また、特に人気の高い「まるごと産直市」には、朝来市を中心とした周辺地域の



道の駅「但馬のまほろば」 外観と地域の産物が並ぶ店内

香住水産加工業 協同組合

代表理事組合長
長 一仁 氏



そのため海産物の「目利き」にも定評があり、現在では、北は北海道、青森、秋田、新潟、石川、富山、福井など、西は鳥取、島根の漁港から、質の良い水産原料を買い付け、水産加工品を安定的に製造して全国へ出荷しています。

香住水産加工業協同組合は、この地域の「香住漁港」と「柴山港」、2つの活気ある漁港を構える香住地域は、新鮮な海産物の宝庫です。特産の香住ガニや松葉ガニ、白イカ、カレイのほか、四季を通じてさまざまな魚が水揚げされます。

古くから種類豊富な 水産加工業が発達

香住から全国へとお届けする 良質の水産加工品 原料の輸送、製品の出荷を 支える道路ネットワークに期待

また、歴史をたどると、江戸時代から明治にかけて大阪と北海道を結んだ「北前船（きたまえぶね）」の寄港地として、食文化の往来があり、生活の知恵として魚介類の優れた加工技術が発達しました。その伝統を受け継ぎ、練り製品、缶詰、干物、焼き物、ポイル、珍味など、バリエーション豊富な加工品を提供する、水産加工業が盛んな地域でもあります。

新鮮な原料を仕入れ 美味しい製品を運ぶために

水産加工品の原料は鮮度が重要です。他港から買い付ける水産原料は、北海道や青森からであれば、船で舞鶴港や敦賀港まで運び、そこから陸送（道路利用）しています。舞鶴港から約2時間、敦賀港からは約3時間を要します。また、北陸地域からは陸路での輸送となるため、2024年問題ともいわれる、ドライバーの働き方改革に対応し、より効率のよい輸送を検討しながらトラックを走らせています。



香住ガニの競り



香美町長
浜上 勇人 氏

地場産業と共に生き 次世代につなぐ町へ

魅力ある香美町の未来をつくるため
交通インフラ整備を活かしていく

地域資源に恵まれた町で 産業が発展

兵庫県北部の日本海に面する香美町。標高1,000m級の中国山地に囲まれ、林野が約86%を占める自然に恵まれた町です。美しい棚田の風景に加え、海水浴やキャンプ、スキーなど四季折々のアクティビティも楽しめます。また人と人、人と自然の共生により育まれた誇るべき伝統や文化があります。

一方、全国的な課題である人口減少と少子高齢化に直面しているのも事実であり、町の魅力を再認識すると共に、将来に向けた取り組みを考える必要があります。例えば、香美町香住エリアを含む地域は、古くから漁業基地として地場産業を支えてきました。水産加工技術は日本有数と高く評価され、市場への出荷だけでなく、近年は香住ガニ（ベニズワイガニ）やのどぐろなどの海産物がふると納税の人気商品ともなっています。畜産業も重要な産業のひとつで、但馬牛のルーツは香美町で生まれた田尻号だと言われており、兵庫県産牛肉ブランド「神戸牛」をはじめ、日本全国の黒毛和種のほとんどがその遺伝子を受け継いでいると言われています。

さらに、宿泊施設や飲食店などの第3次産業も活況です。旅館や民宿が多く並び、カニや魚、但馬牛などを使った料理を求める観光客が増えています。来町者の約70%が京阪神エリアから、そしてその約80〜90

%が車でお越しになります。地場産業と共に生きる町として発展を続けるためには、日本全国へ食材・食品を流通させられる販路の拡大、関係人口を増やし地域消費を増やすことがより重要になるでしょう。

地域連携・交流人口の 増加に期待

香美町の産業を維持・発展させ次世代へつなぐには、交通インフラの整備は欠かせません。現在進められている北近畿豊岡自動車道や山陰近畿自動車道の整備により、鮮魚や水産加工品の輸送時間が短縮され、より新鮮な状態で届けられるようになります。但馬牛の仔牛も安全かつスムーズに輸送できるようになり、畜産業の発展に寄与します。

また、観光客の80%以上は自家用自動車で移動することが多いため、交通アクセスの改善は旅行先の選択肢とする上では重要なポイントです。

北近畿豊岡自動車道の2部である豊岡道路が開通され、そのちに山陰近畿自動車道のさらなる整備につながることを考えると、これは非常に大きな出来事です。「麒麟のまち創生戦略会議」と称される、鳥取県東部・兵庫県北但馬、1市6町との他地域交流も促進されることでしょう。香美町としても新鮮な海の幸や水産加工技術といった特徴を存分に活かし、但馬地域で独自の価値を発揮できればと考えています。

いかに迅速に行えるかは今後の課題であり、北近畿豊岡自動車道の延伸と、国道や山陰近畿自動車道とのネットワーク化に大いに期待するところです。

香住産の水産加工品は、良質であるという評判を長年にわたり全国でいただいております。こうした製品も、道路があつてこそ、より早く新鮮なうちに目的地に届けられます。気候変動など環境の変化により全国で漁場が変わりつつある中でも、私たちは美味しい製品を但馬地域はもちろん、京阪神大都市圏や東京・豊洲市場へと安定的に届け、全国の皆様に喜んでいただくことを通して、地域経済に貢献していきます。

湯村温泉観光協会

朝野屋 代表取締役社長

朝野 泰昌 会長



但馬の北西部に湧く、湯村温泉の歴史は古く、その開湯は平安時代初期とも、奈良時代ともいわれています。1980年代にはドラマ『夢千代日記』の舞台ともなりました。温泉街は半径400mほど、端から端までそぞろ歩きをするのに丁度よい大きさの街に、12軒の旅館があります。

湯村温泉の「湯」は、98度の高温と豊富な湯量に恵まれた、無色透明・無味無臭の重曹泉です。地区内には全部で63の源泉があり、旅館のほか民家でも所有しています。源泉を持たない家にも、水道同様に温泉水が引かれていて、蛇口をひねれば冬でも温かいお湯で手や顔が洗えます。また、重曹泉の性質から、料理に使えば味がまろやかになり、皿洗いや洗濯に使えば油污れがよく落ちると重宝されています。

温泉街の中心にある「荒湯」と呼ばれる源泉は街の共有財産。「湯がき」といって、季節の野菜や山菜、卵などの食材を茹でる湯つぼを、地元の人が使いにやつて来るのが



朝野屋 露天風呂彦星夜明け

日常風景です。荒湯は24時間365日、観光の方々にも無料で開放されています。こうした「湯がき文化」をはじめ、温泉と共にある街の暮らしを見て、体験していただけることが湯村温泉ならではの魅力となつて、年間約17万4000人（2023年実績）のお客様が訪れています。

京阪神圏との往来も 周遊観光も一段と便利に

湯村温泉のお客様の交通手段は、約60%が乗用車、約35%が大型バスです。乗用車で来られるお客様のうち約半数は、京都・大阪・神戸からお見えになられるので、豊岡道路が開通し、北近畿豊岡自動車道がさらに北へと延びたことにより、お客様の交通の便が一段と良くなり、私どもにとっても商圏が広がり、大変うれしく思っています。

また、バスを使ったツアーのお客様は、周遊観光の中で当温泉にお泊りになられるのでより多くのお客様にお越しいただけます。また新たな周裕コースも生まれます。

例えば、近年増えている台湾からのツアーでは、出雲大社、大山、そして湯村温泉、天橋立、姫路城、瀬戸内海で朝日や夕日を見て、関西国際空港から帰国するコースが人気です。豊岡道路II期の工事が進み、山陰近畿自動車へとつながれば、さらに多様な周遊観光に対応できるネットワークができるものと、とても期待しています。

昨今、お客様が宿に求める目的は多様化しています。女性グループに喜ばれるおもてなし、お子様連れでのびのびできること、快眠でリフレッシュ、地元の旬の食材をふんだんに使ったお食事など、目的に応じてお客様に選んでいただき、また町全体でお迎えできるよう、12軒の宿それぞれが個性化・唯一化を図っています。道路ネットワークの充実とともに、より多くのお客様に温泉街の生活文化、温泉と共にある街の楽しみ、そして多彩な宿の魅力をご満足いただけるよう努めてまいります。



新温泉町長

西村 銀三 氏

南北軸整備が促進 次はいよいよ東西軸へ

北近畿豊岡自動車道から山陰近畿自動車道へ つながるネットワークに期待

豊富な温泉と新鮮な海の幸 資源に恵まれた新温泉町

浜坂町と温泉町、2つの町が合併し、2005年に誕生した新温泉町。町名のとおり、新温泉町といえば温泉。吉永小百合さん主演のドラマ「夢千代日記」で有名な湯村温泉は美肌いい炭酸水素塩泉。源泉100%かけ流しの湯が人気の七釜温泉は神経痛やリウマチに効果的というように、さまざまな特徴を持つ温泉めぐりを楽しめるのが魅力です。一時は旅館の倒産が続きましたが、外部資本や地元の水産会社などが買い取って、新たな旅館をオープンし、再び活気が戻ってきました。

新温泉町には、日本海が誇る冬の味覚の王様、松葉ガニや、高級ブランド牛の但馬牛などの特産物も豊富です。これらの恵まれた観光資源を生かし、町を発展させていくためには、交流人口を増やしていくことが重要です。コロナ禍以降はワーケーション事業に力を入れ、東京の大手企業との交流も増えてきました。また、最近では地域おこし協力隊の方が廃校になった小学校の跡地を利用して、鹿肉のジビエ加工事業も始めようとしています。

道路整備による京阪神や鳥取からの観光客増に期待

2024年秋には但馬空港ICと豊岡出石ICを結ぶ北近畿豊岡自動車道の豊岡道路が完成し、南北の軸が開通します。

その後はさらに豊岡道路II期、そして山陰近畿自動車道の整備が進み、新温泉町まで東西のラインが広がっていく予定です。これにより、京阪神や鳥取からのアクセスも良くなり、観光面への好影響が期待されます。もともと年間約100万人の観光客のうち、約70%が京阪神からの夫婦や家族連れで、その約90%が車で来られています。道路整備による利便性の向上は、さらに多くのお客様に足を運んでいただくチャンスとなるはずです。

また、鳥取県とは日本遺産「麒麟のまちDMO」（観光地域づくり法人）として連携しています。麒麟獅子舞は因幡・但馬地域に古くから伝わる重要な民俗文化財で、そんな霊獣麒麟が息づくこの地域を「麒麟のまち」圏域と呼び、観光や移住定住など、さまざまな分野で連携し、地域経済の発展を目指しています。

今後、山陰近畿自動車道整備によって、さらに鳥取県との距離も近くなります。鳥取空港から新温泉町までは車でわずか30分。鳥取砂丘には年間約900万人の観光客が訪れるので、新温泉町にも足を延ばしていただけるよう、魅力的なまちづくりに取り組んでいます。

地元の皆さんにも協力してもらい、訪れるお客様とくまぐコミュニケーションをとりながら、道路整備を生かし、新温泉町ならではの温泉めぐりや新鮮な海の幸をより多くの方に堪能していただければと願っています。

TAJIMA area

但馬地域は、兵庫県北部に位置し、東は京都府、西は鳥取県に隣接しています。構成する3市2町（豊岡市、養父市、朝来市、香美町及び新温泉町）のそれぞれの魅力をご紹介します。

新温泉町

名前が示す通り、町のあちこちに温泉があり、長い歴史を持つ湯村温泉の「荒湯」は多くの方に愛されています。また、四季折々の豊かな自然を満喫できます。（写真：新温泉町提供）



猿壺の滝



上山高原ススキ



養父市



かつて日本一のスズ鉱山として栄えた明延鉱山、但馬5社のひとつ「養父神社」、ハイキングやスキーが楽しめる「ハチ高原」があります。（写真：養父市提供）

ハチ高原



明延鉱山



養父神社



松葉ガニ



今子浦



活イカ



香美町



松葉ガニ、活イカ等が楽しめる日本海に面した香住エリア、但馬牛の放牧風景や美しい棚田が広がる村岡・小代エリアからなり、四季を通じて豊かな自然とグルメに出会えます。（写真：香美町提供）

豊岡市



7つの外湯めぐりを楽しめる全国的にも有名な城崎温泉をはじめ、西日本屈指の神鍋スキー場、但馬の小京都といわれる出石城下町など異なる魅力を楽しめます。（写真：豊岡市提供）

城崎温泉



出石城跡



神鍋高原



朝来市



日本のマチュピチュとも言われる国史跡の竹田城跡や生野銀山など中世から近世にかけての遺産が魅力です。また岩津（いわつ）ねぎなどの特産品も味わえます。（写真：朝来市提供）

銀山坑道



竹田城跡



岩津ネギ



所要時間を短縮し、利便性を高めます

豊岡道路の開通に加え、現在事業中の豊岡道路（Ⅱ期）、城崎道路が開通した場合、未整備時点の所要時間から約78分短縮される事になり、道路交通の利便性が向上します。

◆但馬地域の主要な観光入込客数



城崎温泉（提供：豊岡市）



竹田城址（提供：朝来市）



余部橋梁（提供：香美町）

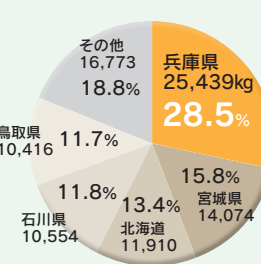


物流の迅速化により新鮮な食材を届けます

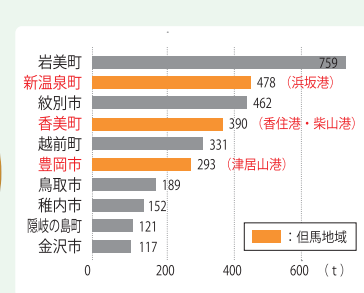
漁獲高全国シェア上位を占めるズワイガニをはじめ、但馬地域を代表する生鮮食品の京阪神方面への輸送時間が短縮され、鮮度保持・品質向上が期待できます。



◆大阪府中央卸売市場における国内のカニ取扱高



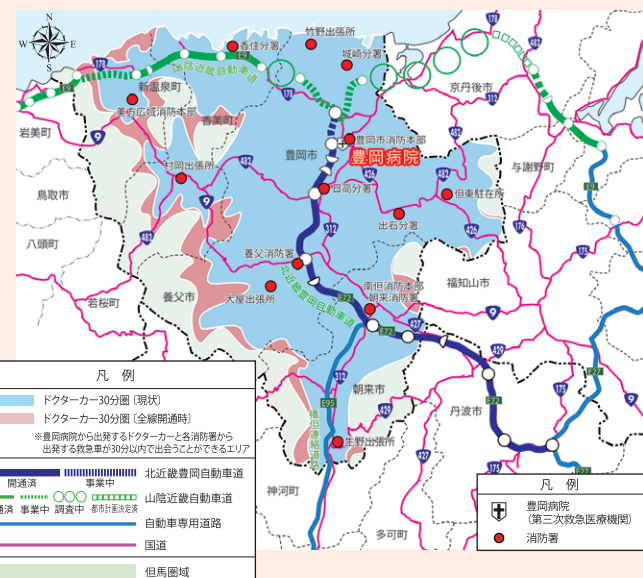
◆ズワイガニの漁獲量上位10市町



緊急医療機関への搬送時間を短縮します

緊急医療においては、搬送時間が重要です。北近畿豊岡自動車道及び山陰近畿自動車道の整備によって、第3次医療機関である公立豊岡病院までの救急搬送時間が短縮されることで、30分圏域が拡大します。

◆豊岡病院からのドクターカー 30分圏域の変化



【ドクターカー】

○救命センターの医師、看護師等が乗務し、救命処置等の必要な救急患者が発生した救急現場に出発して医療行為を行うことによって、地域住民の救命率の向上及び後遺症の軽減を図ることを目的として運行されています。
○悪天候時に出勤できないドクターヘリを補完し、今以上の救命率向上が期待されています。



災害時においても機能する道路ネットワーク

平成16年の台風23号では、円山川の氾濫により豊岡市街地が浸水し、国道178号などの幹線道路で通行止めが発生。（下図参照）
災害拠点病院である豊岡病院は浸水区域に立地（平成16年当時）しており、病院への搬送ルートが途絶え、患者の搬送など救急医療に支障が発生。【写真①、写真②】
北近畿豊岡自動車道の整備によって、災害時でも機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築します。

◆H16 台風23号時の浸水状況



写真① 豊岡病院（移転前）の浸水状況（H16.10撮影）



写真② 国道178号及び426号の浸水状況（H16.10撮影）

「魅力あふれる但馬」を通じて、より多くの方々に但馬地域を知っていただき、「但馬地域に行ってみよう」と思ってもらえるきっかけになれば幸いです。
冊子発刊にあたり、多大なご協力をいただきました方々に厚く感謝を申し上げます。

南北軸の北近畿豊岡自動車道と東西軸の山陰近畿自動車道が基幹道路ネットワークとして繋がることにより、災害発生時の交通確保、救急医療機関へのアクセス向上、観光振興への支援など地域の人々の安全・安心な暮らしにつながりますし、但馬地域と周辺地域との交流が一層活性化されることでしょう。

このたび、但馬地域の行政・医療・観光・産業などの分野で活躍する方々から「地域が持つ強み」や「地域が持つ可能性」、「地域の将来像」のほか、地域をつないで支える北近畿豊岡自動車道や山陰近畿自動車道への期待など、多様なご意見をお伺いし、本冊子「魅力あふれる但馬」としてとりまとめ、発刊することになりました。

発刊に寄せて

国土交通省 豊岡河川国道事務所長

荒谷 芳博

令和6年9月

豊岡市・養父市・朝来市・香美町・新温泉町

**国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所**

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町 10-3
TEL: 0796-22-3126
<https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/index.html>

